

館長室 ◆ ようこそ 30

『襷をつなぐ』

図書館長 古川 聡

私が欠かさずに見るスポーツに箱根駅伝がある。シード校に加えて、立川にある国営昭和記念公園で10月に開催される予選会を通過したチームが、東京駅近くの大手町から箱根芦ノ湖を目指して周囲の声援の中をひた走る。平坦な所でもあの速さで走り続けることに敬服するが、箱根の坂道でさらにスピードアップして駆け上っていく様子は圧巻である。この駅伝に出たいがために東日本の大学に進学してくる人の気持ちもわかるような気がする。

駅伝は過酷なスポーツだと思う。大手町を出発してから中継地点ごとに襷を手渡し、再びその襷を大手町まで持ち帰ることを目指して走る。往復で10人の走者の汗がしみ込み、選手たちにとっては命の次に大事なものだろう。だが、体調を崩しペースダウンしてトップから大きく遅れると、待ち構えているのは繰り上げスタートである。中でも9区を任された走者のすぐ目の前で規定時間になり、10区の走者が別の襷を手にして走っていく姿には辛いものがある。

私は小学校5年生の頃に急速に身長が伸びた。子ども料金で電車に乗って、いつもいぶかしがられた。運動能力に長けている訳ではな

いが、同級生の一步より私の一步のほうが格段に広く、結果として速く走れることになる。そのため全学年が紅白に分かれて行うリレーの選手にも選ばれた。ひとつ前の走者から右手でバトンを受け取り、それを左手に持ち替え、確実に次の走者に手渡し。手渡しがあまくないと、次の走者はバトンにばかり注意が向いて走るのがおそろかになる。そうならないといけない、走るよりバトンの受け渡しの練習を繰り返した日のことをしっかりと覚えている。

国立音楽大学の教員になり18年近くが経つ。その中の8年間を図書館長として過ごすことができた。前任の館長から襷を受け取り、1周4年の館長職を2周走ったことになる。駅伝では監督が先導車に乗ってアドバイスをするが、私の場合は日々図書館職員からの叱咤激励を受けながらの走りであった。前任者から受け継いだ課題、そして新たに生まれた課題、それらの解決を目指しながら職員のみなさんと歩んだ8年はどのようなようであっただろうか。客観的に成果を見つめ、残された課題の解決をお願いしながら次の館長にしっかりと襷をつなげていくこと、それが今の私の務めである。

当館貴重資料
関連記事

竹内道敬文庫の錦絵がWebで見られるようになります！

国立音楽大学附属図書館には、竹内道敬文庫という近世日本音楽に関する貴重資料があります。三味線音楽を中心に、錦絵、正本、番付など1万点を超す膨大なコレクションです。

国立音楽大学で1997年まで教鞭を執られた竹内道敬先生は、研究のために長年に渡り蒐集された資料を図書館にご寄贈ください、竹内道敬文庫として活用させていただいています。図書館では、大学創立90周年(2016)事業としてこの竹内道敬文庫のうち、錦絵を整理し『竹内道敬文庫錦絵図録目録』を刊行しました。それに合わせて、Webでも錦絵を閲覧できるよう準備を進めています。ご寄贈時の「より多くの方に見ていただけるようにする」という竹内先生との約束を、Web公開することで実現するためです。

運用開始については、2018年末を予定しています。自宅からも閲覧できるようになりますので、是非ご覧ください。Webでの閲覧は、実物では読みにくい文字も、自由に拡大することができるので、研究時にはとても便利です。祭礼の錦絵には、色々な楽器も描かれています。小さな楽器を確認する場合にも、この拡大機能はとても便利です。「歌舞伎」に興味がある方も是非、錦絵をご覧ください。「江戸時代」が近く感じられるようになるかもしれません。

